

## memo Session 2 & 3 discussion

今までの各講演に対する質問、コメント

- C. 波長別の議論が良いか、「gopira は必要なのか」という議論への補足あり。  
天文だけでなく惑星科学も視野に入れる必要がある。
- C. 本シンポジウムは国際協力がテーマだが、講演ではプロジェクト紹介が多かった。  
これまでの経験をシェアし、今後の具体的取組の検討を進めたい。  
2030年、さらには、2040年も視野に入れて考えて欲しい。

サマリーのスライドを踏まえた議論

- C. 国際協力に関する講演があったが、では、この議論を受けて自分たちはどうしたらよいか良く分からない。国際協力自身はもうやっている。国際協力とは、自分たちだけでは無く相手が合って成り立つものである。すばるでどう国際協力をしていくのかが、まだ、クリアにできていない。時間売りはしないということだが、すばるとしてどう進めていくのか、コミュニティとして合意をとるべき。
- C. これまで時間売りは考えていない。共同運用を考えてきた。時間売りはやりやすいが、それではわれわれには何も残らない。それは避けたい。われわれにも何か残る、win-winを追求したい。観測所内ではこの基本方針は了解している。
- Q. EAOとの協力は？ 時間を提供したのか？
  - A. 提供したが、これをずっと続けるわけではない。今回がきちっと考える出発点。
- Q. オーストラリアとの協力は？
  - A. オーストラリアはESOとの協力をシフトした。ただし、一部大学、個人との協力の可能性あり。
- Q. 時間の切り売りでは何も残らないという主張だが、少なくとも、運用は継続できる。これではだめか？
  - A. そういう考え方もある。Keck等ではそのように割り切っている。すばるでは、現在は考えていない。が、切羽詰まったらやる可能性あり。
- Q. 観測所の意思は分かった。コミュニティーの意思はどうか？
  - A. コミュニティーもそう考えていると思う。が、コミュニティーから意見があれば、柔軟に対応したい。
  - C. どうすべきかは状況によるはず。状況は変わるので継続的に考える必要がある。
- C. 切り売りすると、large surveyが難しくなる。NAOJの予算は運営費の50%。  
それを切り売りでまかなおうとすると、large surveyは無理になる。
- Q. Keck, Geminiとの時間交換、HSC戦略枠の時間、UH時間(15%)などの  
プロポーザルは現在独立である。これらの連携した観測を一つのプロポーザルとし

て

出せるようにできないか？ また、その際、国別カウントをすることはできるのか？  
Keck, HST, VLT などでは、共同提案ができる。

A. それぞれプロポーザルを出して協力することは可能。

Q. 手間を省きたいので一つのプロポーザルで出せないか？

A. そういう声はある。Keck とも相談はしている。

UH は完全に独立。UH とは相談したい。

Q. 今日の講演で、お金に応じて夜数を割り振っていると言っているものがあつた。

これは実質的には切り売りでないのか？

A. No. Single TAC なので違う。どうするかは、日本から提案することはできる。

100%プロポーザルによる審査で競争で時間を決める、というのではないであろう。

オーストラリアとの交渉では、single TAC でお金に応じて時間を振った。

Q. ALMA 的なやり方か？

A. ある意味 ALMA 的。EAO は完全競争思想。他とのバランスは我々が提案できる。

C. 今のコメントは、コミュニティの意見を反映していると思える。

すばるを国際運用すると、日本分の観測時間が減るのか、という運営側への質問。

国際協力での参加は非常に早いフェーズから行う必要がある。個人でも参加できる。

サイエンスでも、装置でも。大型計画は、将来を見据えてグループで行う必要がある。

大事なものは、経験をみんなで共有すること。ブレストをしてみよう。

C. そのとおり。そのブレストが本シンポジウムの趣旨である。午後、これから、

中小プロジェクト、大学の話がでてくる。国際協力にもいろいろある。経験をシェアしよう。

C. わが国が世界に誇れるキー技術を持っておく必要がある。それがないと、、、

(途中で zoom 接続が中断。発言者から後で以下のようにメールで補足あり)

それがないとお客様の扱いになり、本当に重要なパートナーとしてみなされない。

例えば、スペース赤外では、IRTS から AKARI で先を見越して冷凍機・冷却システ

ムを

開発・導入してきた。SPICA でも重要。X 線の A-H や Athena とも共同開発。我が

国の

独自技術を見極め、国家戦略的に予算を投入し、そこを重点的に伸ばす戦略が必要。

そのためには、天文台・宇宙研がしっかりと舵を取って、各大学をとりまとめて

いくことが重要。

Q. NASA はデータを即時公開している。海外からのプロポーザルも受け付けている。

で、誰が使っても、プロジェクトの成果としている。すばるの場合、観測の

時間切り売りで得られた成果もすばるの成果、とできるか？

A. 一般市民や、政府に対してそう主張することはできる。

C. space astronomy はそうやってきた。しかし、コミュニティの大きさを考える必要がある。米国は大きいので、国内への影響が少ない。日本でそれをやって、国内が空洞化しないかが心配。日本の X 線ミッションでは、観測後 1 年の優先期間を設けて、手当てをしている。